

## 市民との意見交換会・報告書

開催地区：門田地区	開催日時：令和5年11月15日（水） 18時00分 ～ 19時40分
担当班：第1班（出席議員）大竹俊哉、笹内直幸、長谷川純一、大山享子、松崎 新	
開催場所：南公民館	
参加人数：男性 10名、女性 2名、合計 12名（うち班外議員 0名）（他自治体等傍聴者 0名）	
会場の雰囲気、次回に向けての反省点、申し送り事項など	
1. 意見交換の総括	
(1) 議会報告、市政全般についての総括	
① 9月定例会議について つながりづくりポイント事業について質問があった。	
② 市政全般（市のまちづくりに向けた課題）について 給食費無償化について、議員定数削減について質問があった。	
(2) 地区別テーマについての総括	
① 地区別テーマ 子ども・子育て支援について ～地域を担う子どもへの支援～	
② テーマ設定の理由、背景 門田地区における子ども子育て支援と地域コミュニティ活動について意見交換した。	
③ 主な地域課題 子育てについて地区内で深めた話し合いが不足している。一方で、子どもに対する各種支援活動が行われている。	

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項  
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
<p>広報議会で「つながりづくりポイント事業」の取組が報告されている。例として地域学校協働活動事業にもポイントが付与するようにと記載されているが、こんなことできるのか。</p>	<p>「つながりづくりポイント事業」は、団体登録が必要である。その団体の中に60歳以上の方がいれば、60歳以上の方につながりづくりポイントが給付される。地域学校協働活動事業にもポイントが付与されるのかについては、第2分科会委員が議員間討議を行い、市民の認知度が低いことから今後、地域学校協働活動事業にも適用できないかと提案したもので、決定までは至っていない。</p>	○	①		高齢福祉
<p>門田地区地域学校協働活動には36名が登録をしている。活動は、学校からの要望があったときに参加している。現在、地域学校協働活動は、無償で行っている。「つながりづくりポイント事業」は、有償ボランティアになるので可能なのか疑問に思ったところでした。</p>	<p>「つながりづくりポイント事業」は、来年度も取り組まれる。議会の提言についても協議していく。</p>	○	①		高齢福祉
<p>子育てボランティアがあるのか。こども未来基金は何に使われているのか。</p>	<p>広い意味での子育てボランティアは、先ほど紹介いただきました学校に対する支援、放課後子ども教室もボランティアである。また、各種団体の方が、子どもが参加する競技を助けるのもボランティアである。無償、有償様々な形態がある。こども未来基金の関係については、これは基金から子どもの支援に対する事業に支出する基金である。毎年度行われている事業である。</p>	○	①		少子高齢化
<p>子どもの出産に約50万以上かかる。また、現在、出産できる病院は、竹田総合病院と会津中央病院だけが受け入れている。出産費用の援助について考えていただきたい。</p>	<p>国を挙げて出産費用補助制度について見直ししてま。近年、出産費用に対する費用の補助を上げると出産医療費が上がる。これが現状である。親御さんが安心して産み育てることのできる環境をつくるのが一番の問題である。しっかりと国と福島県、会津若松市に提言する。</p>	○	①		少子高齢化

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項  
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
<p>学校給食の無償化についての考え方であるが、学校現場にいた者として、学校給食費については、家庭の所得が少ないところは、準要保護と要保護で全額負担がない。給食の食材は保護者が負担をし、機材は市で負担している。給食費を無償化した市は膨大な予算がかかることになる、市単独でやる事業ではない、国を挙げてやるなら理解する。どうしても保護者負担を軽減したいならば、例えば児童手当を上げて、児童手当から天引きをして給食費を差し引くこと。親は子どもを育てる第一義の責任者であり、何でも行政に頼るのはいかかと思う。そういう気持ちでいる。</p>	<p>議会の中で議論をしている。9月の議会では、市長答弁で法律、各種支援等総合的な判断が必要で、市単独予算の実施は慎重な対応が必要で国の動向を含め検討すると答えている。やるなら国でやるのが一番だと思う。</p>	○	①		学校給食
<p>議員定数の問題出ると、例えば委員会に参加する議員の方の数が少なくなるので、充実した議論ができないという理由で議員は減らせないという回答をいただく機会が多い。私は少数精鋭で、少なくともそれぞれの議員の方の質また力量を高めていただいて、通年議会の制度で、ある程度期間、委員会の協議の時間を工夫されて、多くの議員が話し合いできる等、議員の定数は計画的に削減していった方が市の財政面ですごくいいのではないかと。できれば4年ごとに選挙がありますので、その都度、議員定数について議論をする検討する、そういう場を設定して、随時検討していく必要があるのではないかと。思う。</p>	<p>お聞きしたいんですが、なぜ議員を少なくすればいいんですか。人口に応じてある程度議員の定数があるっていいのではないかならば、それぞれの市町村ごとに議員は、人口何人に対して議員定数何人にするっていうことになりますよね。それとは違う考えもあります。会津若松市の事務事業は増えてます。議員は減り続けてます36人いたのが、今28名です。会津若松市議会が定数を話し合ったときは、市の事務事業そしてそれを議員一人一人が、十分精査をして、予算がこれでいいのかどうか判断できるように議員がチェックができるのか、市民にとって良い事業なのに深まらないという考えが出された。これからも議員定数については、様々なご意見を頂戴しながら、4年に1回なのか8年に1回なのか別にして、定数については、常に議会の中では話し合いをしていくことになっている。議員は28名定数のままと思っていないので、ご理解ください。</p>	●	①		議員定数

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項  
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
門田地区に大災害が起きたとき、地区防災組織が機能するのか、自分の命は自分で守る、自分で生き延びることが基本だと考えます。また、市が安否確認をするか地区住民が安否確認をするか大事なことです。そこで市と地区は、どのような連携をとっていったらいいのか考えとその対応についてお聞きします。	昨日、東山地区でも地域防災について意見がありました。一つの事例として大戸町に地域防災委員会がつくられ、地域で住んでる方が一番地域の状況を理解していることから、それぞれの地区ごとにどこに危険箇所があるか、避難場所について出し合い地域防災マップをつくりました。これは、まちづくりと一体になって作成した事例です。	○	①		防災・安全
防災の話である。地震、大雨が来るから避難する。扇状地、氾濫地域とかがあります。埋め立ての造成地地域になると、少しの揺れで被害が出る。以前、防災マップを作成したが、少し専門知識がないと難しいことを知った。	ありがとうございます。ご意見として伺います。	○	②		防災・安全
私は消防団に入っている。いま、会津若松市全体の消防団員が減っている。消防団への勧誘についてであるが、市議会、会津若松市でも話して消防団員の加入を呼びかけてほしい。	現在の消防団員の定数は、1,400名が定員で、その定員に対し現在1,123名任命されている。所管する危機管理課は、5年後の各地域の消防団活動と消防団員の姿について話し合いをし、消防団の定員削減を考えている。市役所職員、県職員も含め公務員は、各消防団に所属しています。旧市内の第1分団～第5分団の団員体制は、逼迫している状況です。それ以外にも基幹班のポンプ車運営については、厳しくなっている。	○	①		防災・安全
背あぶり山風力発電所建設計画の反対の発言である。後日、市議会に要望書を提出する。	要望書を提出することは分かりました。	○	①		環境

○ 地区別テーマでの意見交換について → 子ども・子育て支援について～地域を担う子どもへの支援～

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
<p>子育て支援事業のこどもクラブの待機児童について説明があった。職員、人員確保が一番最優先すべき課題だと思う。先ほどの説明で、賃金が安いこともその要因の一つとあったが、人員確保についての取組を伺う。</p>	<p>本日のテーマは、子ども子育てについて。本日は、子育て中の方が来ていただいている。議会だよりに掲載しているこどもクラブの待機児童の関係では、何が課題、問題であるのか話し合いをしてきた。ぜひ若い方々のご意見を寄せてください。</p>	○	②	
<p>こどもクラブの職員のなり手がいないのは、賃金のことがあると思う。職員は資格が無くても採用されますが、資格のない人は、職員として働くことを選択しないと思う。</p>	<p>こどもクラブの職員確保については、難しくなっていると聞いている。こどもクラブは、市が事業者に委託契約している。人件費、運営費等積算しそれぞれの事業者と契約している。その後、委託業者が職員に対し賃金を支払っている。職員の賃金を市が決めているわけではない。議会は、職員が働くことのできる環境づくりについて提言している。</p>	○	②	
<p>こどもクラブで働いている。今、子どもと保護者の方に対する対応が難しくなっている。こどもクラブには、学校でのトラブルを抱えてくる子ども、支援学級に通う子ども、支援学級は少人数で過ごしますが、こどもクラブは大勢の子どもがいる。そのことで、ストレスを抱えることにならない対応が求められる。また、学年が重なり、子どもの思いが様々な中で過ごす場であり、トラブルなくお迎えが来るまで、預かることに苦労している。こどもクラブの仕事は、午後からで勤務時間が短いため賃金は安くなる。</p>	<p>こどもクラブの現場の声を聞きたいのですが。</p>	○	②	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 子ども・子育て支援について～地域を担う子どもへの支援～

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
<p>こどもクラブを利用する方が多いのは、状況を考えて仕方がないと思う。共稼ぎで働いている立場で発言する。今、職場の残業が増えている。子どもを早く迎えに行くことは困難になる。また、子どもの面倒見られないこともある。さらに、24時間営業してる店、土日でも働く職場が増えている。こどもクラブに日曜日も預かってほしいと思ってる方もいると思う。こどもクラブの賃金が良いとか、こどもクラブが魅力的な職場とならない限り働く人は、増えないと考える。</p>	<p>こどもクラブの待機児童だけに目が行きがちだが、こどもクラブの現場の環境をもっと理解もした上で、子どもや親御さんそして職員が望ましい居場所にしていかねばならないと考える。</p>	○	②	
<p>私もこどもクラブを利用していた。勤めのため迎えは、どうしてもギリギリで、先生が待ってくださったということが、何度もあった。私の一つの案としては、家族以外の方に子どもを見ていただくこと、仕組みをつくることだと考える。</p>	<p>待機児童の解決のためには、職員の働く条件、環境とかを考えなければならない。こどもクラブは、必要である。ご意見ありがとうございます。</p>	○	②	
<p>放課後子ども教室とこどもクラブは、運営や費用など異なる。放課後子ども教室は、公民館の社会教育関係の事業となる。また、子どもは登録制である。卓球、パソコン、語り部等を行っている。時間は、下校後、午後4時、5時まで開催しています。その間、子どもが楽しく過ごしていただく手伝いをしている。子どもが体験することによって、友達ができて、経験をして、成長することを願っている。</p>	<p>今、提言がありました。南公民館が行っている放課後子ども教室が同じような事例になる。ここに指導員の方がおられるので説明をお願いします。</p>	○	②	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 子ども・子育て支援について～地域を担う子どもへの支援～

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
<p>先ほど放課後子ども教室とこどもクラブの比較の話あったが、放課後子ども教室の指導員は、資格が必要ない。市から委託されコーディネーターが置かれ、安全管理と指導員、サポーターが運営している。例えばパソコン教室だが、誰でもできるが、子どもたちと一緒にやるのには経験が必要となる。今の課題は、発足した当時のベテランの担当者が、少なくなってきたて継続が大変になってきている。今は、資格がなくても、子どもたちを安全に見られる経験された方に対し、参加していただくための不安な面を研修、説明の時間をどのように取るのか等の課題がある。今年度は、6月から11月までの開催であった。来年度の課題は、放課後子ども教室に参加する子どもとこどもクラブに通う子どもの受け渡しのこと、引率のことを整理することである。</p>	<p>少し説明させていただく。放課後子ども教室は、文部科学省で、一方で、厚生労働省の所管でこどもクラブが運営されています。こどもクラブは、会津若松市が設置した段階では無料であった。合併をして平成16年、有料化になった。門田地区は、放課後子ども教室を開催する前に子どもたちと遊ぶ社会教育の一環として公民館事業で行っていた。そのため、すぐに放課後子ども教室に移行できた。</p>	○	②	
<p>小金小学校の地域では、声かけ事案が発生すると学校関係者と地域住民で防犯パトロールを実施している。共働き家庭が多いためそこに参加される方は少ないが、話し合いをして地域で子どもへの支援活動をしている。</p>		○	②	